

防犯設備士養成講習・資格認定試験 第100回を終えて

防犯設備士委員会 委員長 平野 富義



平成29年11月10日、11日で防犯設備士養成講習・資格認定試験第100回を無事終えることができました。第1回は平成4年2月東京と大阪で実施され、25年かけて防犯設備士27,339名（平成29年12月20日現在）が誕生しました。当初からこの制度に係わってきた一人として感無量です。以下この25年間と100回を振り返ってみます。

＜防犯設備士養成講習・資格認定試験開始までの経緯＞

日本防犯設備協会設立の目的の一つに国民に安心して使える防犯システムを提供する、そのためにハード面では機器認定制度（現RBSS認定制度）、ソフト面では「防犯設備士」制度、この二つが車の両輪のように強く作用して信頼して使っていただけるシステムを提供することにあります。

RBSS制度は平成20年防犯カメラと録画装置からスタートしましたが、防犯設備士の養成講習・資格認定試験は平成4年2月から開始しています。

きっかけは平成3年12月17日付けの官報で国家公安委員会公告第6号「防犯設備の設置及び管理に関する審査・証明事業認定規程」が告示されたのを受け日防設が申請し、平成3年12月26日付けで認定されたので翌平成4年2月に「国家公安委員会認定事業」防犯設備士養成講習・資格認定試験をスタートさせました。

＜防犯設備士養成講習・資格認定試験開始＞

第1回の防犯設備士養成講習・資格認定試験は、平成4年2月東京が22日～23日スクール・オブ・ビジネス代々木校で、大阪は2月27日～28日警察会館で実施され179名の防犯設備士が誕生しました。この際、養成講習の講師が一組しかいなかったこともあり東京、大阪別々の日に実施しましたが試験問題を同じものを使えないので直ぐに試験問題を作成するのはかなりのエネルギーが必要なため、第3回防犯設備士養成講習・資格認定試験から講師を増員して二組で東京、大阪で同時開催としました。

防犯設備士のテキストは平成2年に完成しており、試験問題も少しずつ作り出していたので比較的スムーズにスタートできました。

一番大変だったのは、養成講習の講師を誰がどの科目を努めるか等を話し合い、講師の特訓を合宿で勉強したことを今でも鮮明に覚えています。何しろプロの講師は誰一人いないのでこれまで試験問題等に取り組んできた委員が手弁当で取り組みました。講師になるためのテストは、警察庁の技官の前で講師一人ずつ順番に実際の講義を務めチェックを受けました。一人講師不合格になった人もいました。



平成8年(1996)3月7日 名古屋会場 受付風景
国家公安委員会認定事業 吉池部長 渡辺委員



平成4年(1992)11月28日

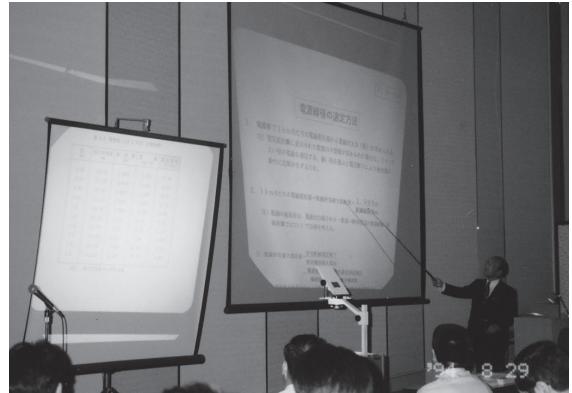
養成講習は、テキストの中身通り電気の基礎、防犯の基礎、機器編、設計編、施工・維持管理編の5科目としました。

資格認定試験は今と同じ知識編と技能編の2種類、合計点の60%以上正解で合格、合格率は当初は95%と高かったのですが、もう少し厳しくと試験審議会からも意見があり出題の方法等を変えてきました。ある時点から知識試験も60%以上、技能試験も60%以上を正解しないと合格とならないよう変更した時点で合格率は10%程落ちました。

＜防犯設備士養成講習・資格認定試験の移り変わり＞

当初養成講習は講師二人がペアを組み実施していました。一人はOHPを、もう一人は講義を担当します。昼食後OHPの周りは暖かい風が出るものですからOHP担当講師がうつらうつら、はいっ、次お願ひしますと言つてるとOHPはストップのまま、講義を担当している講師が自分でOHPフィルムを変え講義を続けるといったときもありました。

今ではPCの普及とプロジェクタのお陰で講師一人で進行しているので懐かしい思い出となっていました。当初はPCとプロジェクタの相性の問題もあり慌てたこともあります。今ではアニメーション機能を駆使したり動画の提供もしています。



平成6年(1994)8月29日

＜防犯設備士養成講習・資格認定試験 受講・受験者の増減＞

防犯設備士試験が始まった当初は受講・受験者数の確保が難しく各社割り当ての形で協力し合ったものです。平成14年、刑法犯の認知件数が全国で285万件と一番多くなり、平成16年「防犯性能の高い建物部品」(CP部品)が開発されたころから受講・受験者数が爆発的に増え、申し込んでも全ての人が受験できない状況が続き抽選制になりました。平成17年7月第50回4会場の内、大阪会場だけで423人が受講・受験し4フロア使って実施し、男性用トイレが間に合わせて休憩時間を延長したことがあります。その後今から数年前は受講・受験者が激減し日防設の経営を脅かす事態になりましたが、またここ2年くらいオリ・パラのせいか増えています。

＜防犯設備士養成講習・資格認定試験制度の変遷＞

平成3年12月17日付けの官報で国家公安委員会公告第6号「防犯設備の設置及び管理に関する審査・証明事業認定規程」が告示されたのを受け、日防設が申請し平成3年12月26日付けで認定されました。

○平成3年度(1991年度)

第1回の防犯設備士養成講習・資格認定試験は東京が平成4年2月22日～23日スクール・オブ・ビジネス代々木校で、大阪は2月27日～28日警察会館で実施され179名の防犯設備士が誕生しました。

○平成4年度(1992年度)

防犯設備士制度の推進功労者表彰(7名) 制度発足1周年

○平成7年度(1995年度)

防犯設備士3000名を超える当初目標達成

○平成8年度(1996年度)

- ・協会創立10周年祝賀会
- ・防犯設備士制度発足5周年 累計3,847名登録
- ・地域協会の誕生

6月26日 山口県防犯設備士地域安全協議会

8月 7日 奈良県防犯設備士協会



平成5年(1993)1月7日
三好会長より表彰を受ける

○平成9年度(1997年度)

防犯設備士制度の推進功労者表彰 制度発足5周年

○平成10年度(1998年度)

- ・平成8年の閣議で「法律に基づかない資格制度については、所管の官庁が関与しているとの表現(○○庁認定)をしてはならない」と決まり、防犯設備士制度は、国家公安委員会認定事業を外れ日防設自主認定事業となりました。
- ・このことを受けて運営幹事会のもとに「防犯設備士政策特別委員会」を開設し対策を考えることになりました。(この委員会の委員長を受け防犯設備士委員会、施工基準委員会と三つの委員会の委員長を兼任することになった。)



平成9年(1997)

北岡会長より 防犯設備士試験5年目にあたり表彰

○平成11年度(1999年度)

新制度立ち上げのため定款変更 上級防犯設備士委員会の設置(後の総合防犯設備士委員会)

○平成13年度(2001年度)

- ・協会創立15周年祝賀会
- ・総合防犯設備士制度発足 第1回認定試験実施 総合防犯設備士49名登録
- ・第1回防犯設備士通信発行

○平成16年度(2004年度)

- ・防犯設備士に新規知識「錠前・防犯ガラス等の基礎知識」を導入開始
- ・防犯設備士10,000名を突破 登録累計10,454名

○平成17年度(2005年度)

- ・犯罪対策閣僚会議で防犯設備士の活用が明記される
- ・ランクアップセミナー(「錠前・防犯ガラス等の基礎知識」講習)を4会場で実施
- ・防犯設備士10,000名を突破 記念祝賀会を開催
- ・防犯設備士 登録累計12,499名

○平成18年度(2006年度)

- ・協会創立20周年記念祝賀会開催
- ・警察庁長官賞 協会と8名が受賞
- ・第1回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催 東京
- ・防犯設備士登録 年度1,719名 累計14,679名
- ・総合防犯設備士登録 年度35名 累計188名

○平成19年度(2007年度)

- ・第2回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催 大阪
- ・防犯設備士養成講習・資格認定試験15周年祝賀会開催
- ・第1回総合防犯設備士「講習認定」実施
- ・防犯設備士登録 年度1,883名 累計16,562名
- ・総合防犯設備士登録 年度44名 累計232名

○平成20年度(2008年度)

- ・第3回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催
- ・RBSS(優良防犯機器認定制度)開始
- ・防犯設備士登録 年度2,052名 累計18,614名
- ・総合防犯設備士登録 年度21名 累計253名

○平成21年度(2009年度)

- ・第4回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催
- ・防犯設備士登録20,000名突破
- ・防犯設備士登録 年度1,452名 累計20,066名

- ・総合防犯設備士登録 年度31名 累計284名
- ・防犯設備士通信メールマガジン配信開始

○平成26年度(2014年度)

- ・第9回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催
- ・防犯設備士登録 年度720名 累計24,939名
- ・総合防犯設備士登録 年度3名 累計334名

○平成27年度(2015年度)

- ・第10回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催 大阪
- ・防犯設備士登録 年度878名 累計25,817名
- ・総合防犯設備士登録 年度7名 累計341名

○平成28年度(2016年度)

- ・第11回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催
- ・防犯設備士登録 年度921名 累計26,738名
- ・総合防犯設備士登録 年度3名 累計344名

○平成29年度(2017年度)

- ・第12回都道府県防犯設備士(業)協会全国大会開催
 - ・防犯設備士登録 年度601名 累計27,339名
 - ・総合防犯設備士登録 年度23名 累計367名
- (いずれも平成29年12月20日現在)

＜防犯設備士養成講習内容の変更＞

当初から養成講習の科目は5科目でしたが、平成24年度から養成講習は、設備機器編、設計編、施工・維持管理編の3科目とし、従来講習していた電気の基礎編と防犯の基礎編は事前提出レポート制に変わっています。

この事前提出レポートは受講生から大変好評で養成講習にも好結果をもたらしています。事前提出レポートを埋めるために必ずテキストを開き勉強する必要があります。

事前提出レポートを完全に仕上げて受付で提出することが養成講習受講の条件になっているので当日会場で初めてテキストを開いたというような人がいなくなりました。

アンケートの結果、事前勉強ができるので養成講習の効果も上がっていると評判も上々です。

＜防犯設備士養成講習・資格認定試験制度の大きな変革＞

防犯設備士試験制度の一部変更があり平成25年度6月第82回試験合格者より3年更新が義務化されました。防犯設備士テキストの大改訂が進められており、平成31年度より使用開始となります。平成30年度までは更新レポートを提出していただきますが今後は各地で集合方式の更新講習を実施する方向で検討しております。この更新講習は地域協会で実施し、その講師は日防設で研修を受けた総合防犯設備士に努めていただくことを考えています。

地域協会と一緒に進める理由はできるだけ地元で講習を受けていただくこと、地域協会にも収入の一部を還元し地域協会活動の一助としていただくこと。さらに地域協会の存在を知らない防犯設備士が存在を知り入会して地域での活躍が期待できること等を考えています。

そして日防設と地域協会の連携を深めていき地域での貢献を期待するものです。

＜結びに＞

平成4年の第1回から養成講習講師、試験問題担当を1回も欠かすことなく連続100回努められたこと、この上もない喜びです。